

事例 6

呼出装置・送信器の改造

1 相談内容

相談者は対象者の夫です。相談者から「病気により筋力が落ちて対象者が『呼出装置・送信器のボタンを固く感じて、押しにくい。』と言うので、押しやすくできないだろうか、改造してほしい。」と相談がありました。

2 対象者プロフィール

60代女性、身体障害者手帳申請中、要介護3です。筋萎縮性側索硬化症(ALS)です。家族と暮らしています。

3 対応

呼出装置の送信器は居間や寝室など各部屋に用意してあるので合計3個ありました。送信器の大きさは手の中に納まるほど小さく、外部端子をケース内へ挿入することができないため、線をつなげてケース外でスイッチを接続できるようにしました。

2芯シールドケーブル10cmの一端へ3.5mmφのメスモノラルジャックを取り付け、もう一端を送信器内のスイッチへハンダづけしました。送信器の蓋を開けると、スイッチはボタン電池の裏側にあったため、基板の既存の穴を利用して0.6mmφの被膜メッキ線で引き出してから、2芯シールドケーブルにつないでいます。



送信器改造の様子



改造後の外観(送信器3個)

4 結果

対象者が以前に試し、押しやすかったスイッチは、プラケーススイッチ(FK016A-S01-15、(有)TY企画)でしたので、入手先のWebページを紹介しました。

その後、対象者からは『楽にスイッチを押して、夫やヘルパーを呼べるようになった。』との感想が寄せられました。

5 予算

3個分で900円程度